

9 転移性膵癌

會澤 雅樹・土屋 嘉昭・野村 達也
梨本 篤・藪崎 裕・瀧井 康公
中川 悟・丸山 聡・松木 淳
本山 展隆*・川崎 隆**

県立がんセンター新潟病院外科
同 内科*
同 病理**

【背景】転移性膵癌の報告は稀で、切除の意義及び適応は十分に検討されていない。当施設にて経験した切除症例について報告する。

【方法】1993年から2010年までに根治切除を行った転移性膵癌の9例を対象とし、膵浸潤症例は除外した。

【結果】原発癌の内訳は腎細胞癌3例、大腸癌5例、食道癌1例であった。転移時期は同時性1例、異時性8例で、原発癌切除から転移性膵癌切除までの期間の中央値は36.2ヶ月であった。切除術式は膵頭十二指腸切除が4例、膵体尾部切除が4例、腫瘍摘出術が1例で、1例で門脈合併切除を施行し、術後合併症は3例で認めた。術後生存中央値は腎細胞癌で100.9ヶ月、大腸癌で57.4ヶ月、食道癌で5.0ヶ月であった。腫瘍因子と生存について比較を行ったが有意な予後予測因子は認めなかった。

【結論】切除後の予後は原発癌の生物学的悪性度によることが示唆された。予後予測には症例の集積が必要と考えられた。

10 高度局所進展を呈した肝内胆管癌における術前化学療法ゲムシタピンの使用経験とRibonucleotide Reductase M1発現の検討

坂田 純・若井 俊文・白井 良夫
宗岡 克樹*・佐々木正貴*・畠山 勝義
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野
新潟医療センター病院外科*

【目的】Ribonucleotide Reductase M1 (RRM1)発現の亢進は、肺癌でゲムシタピン (GEM) 治療抵抗性と関連することが報告されている。今

回、高度局所進展を呈したStage IVの肝内胆管癌2例に対して術前化学療法GEMを施行し、その治療効果とRRM1発現とを検討した。

【方法】当科で根治切除が施行された肝内胆管癌34例中、局所進展が高度な2例に対して術前化学療法GEM (800mg/m², 2週間隔投与)を施行した。癌組織におけるRRM1発現は抗RRM1ポリクローナル抗体による免疫組織化学で評価した。

【成績】RRM1発現：34例中19例(56%)でRRM1発現陽性であり、RRM1発現は遠隔転移の有無とのみ関連した(P=0.004)。術前化学療法：術前化学療法GEMを施行した2例の腫瘍縮小率は各々68%、14%、RECISTによる効果判定は、各々PR、SDであった。2例とも有害事象なく、治療前に立案した術式を遂行できた。術前化学療法の治療効果とRRM1発現：PR症例ではRRM1発現陰性であり、SD症例ではRRM1発現陽性であった。

【結論】高度局所進展を呈した肝内胆管癌に対して術前化学療法GEMは安全に施行でき、立案していた術式を遂行可能であった。肝内胆管癌における化学療法GEMの治療効果はRRM1発現と関連する可能性が示唆された。

11 胆道癌地域連携における一般病院の役割

宗岡 克樹・白井 良夫*・佐々木正貴
深山 大**・継田 雅美**・畠山 勝義*
新潟医療センター病院外科
同 薬剤局**
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野*

【背景】5大癌領域では既に地域連携が行われているが、胆道癌領域で地域連携を実施している施設は少ない。

【目的】当院で実施している胆道癌化学療法の地域連携について検討する。

【方法】対象は2005年1月より2011年4月の間に抗癌剤治療を施行した胆道癌50例。胆嚢癌18例、肝外胆管癌22例、肝内胆管癌7例、乳頭